

都市緑化フェア・老馬谷ガーデン 報告書

環境学部 環境創生学科 3年 都市緑化研究会 会長 荒井航太

●会長として

初めて、老馬谷ガーデンへ行ったときに、だれが会長をやるかという話になり、直感的に『やりたい』と思い、私が手をあげました。雑草、ゴミだらけのこの場所を、俺が変えたいと思ったからです。聞いていた話以上に正直ひどい状態で、ここに本当に庭なんて作れるのかと、その時は思いました。しかし、月日が経つにつれ、変わっていく老馬谷ガーデンの姿を見て、そんな思いは忘れていきました。私一人だけではなく、部員全員、NPO 法人ぐるっと緑道のみなさん、都築区区政推進課のみなさん、地域のみなさん、そして飯島先生の思いが詰まった老馬谷ガーデンがやっと完成しました。でも、作って終わりではありません。この『レガシー』を後の世代に残していくことが大切です。なので、ここからが新たな始まりです。維持管理も楽しんでいこうと思います。



●現場監督としての喜びと苦悩

私は会長、そして現場監督として活動して、様々な経験をさせていただきました。その中でうれしかったこと、楽しかったこと、悲しかったこと、大変だったことなどたくさん思ったことがありました。出来上がっていく老馬谷ガーデンをみて、達成感を日々楽しんだり、土の中から出てくる大量の岩とクズ(つる植物)の太い太い根っこを部員全員で協力し、力を合わせて、シャベルで掘り上げて運んだりする作業を暑い日も、寒い日も、風の日も、雨の日も行いました。この作業は授業の終わった後そして、土曜日日曜日にやっていたので私含め、部員全員それぞれ予定があり、日々の作業内容の指示を飯島先生から伺って、それを参加するそれぞれの部員に伝達する意思疎通の作業は想像以上に大変でした。しかし、これも会長そして、現場監督として、当たり前の仕事でありましたし、上に立つ人の気持ちや苦勞を知ることができた良い経験になりました。この老馬谷ガーデンプロジェクトを通して、人として、一回り成長できたかなと思っています。

● いらぬものをいるものに

老馬谷ガーデンで部員たちとともに土を掘っていて、部員一人がため息をついて、「はあ、また出てきたよ」と言った。何が出てきたんだろうと思い見に行ったら、人の頭くらいの大きさのローム層の土の岩とともに人の腕の太さくらいあるクズ(つる植物)の根っこが出てきました。この二つのものは、ふつうは廃棄物、ゴミとなり、いらぬものになってしまう。廃棄をすればお金もかかるし、時間もかかるし、廃棄物の過程でCO₂も発生して、環境にも悪い。だからこそ、“いらぬもの”を“いるもの”(必要なもの)にかえられないかと考えてみた。「“もの”は考えようだ」という言葉がありますが、まさにこのことでした。

この出てきた岩や石で道を作ろう、道の縁取りをしようと考えました。そして実際に土の中から出てきた石で道の縁取りをしてみたところレンガなどで縁取りをするよりも

「The 自然」という感じがして、非常に良いものが出来上がりました。

もう一つのクズの根っこも何かに使えないかと飯島先生並びに部員たちと話してみても、(自然)堆肥にしようということになりました。柘植の木の根元において乾燥させて、今は、私にとって必要なもの「いるもの」になってくれました。同時にトカゲなどの生き物の住みかとなり、人間にも、生き物にも「いるもの」になってくれました。普通に考えたらゴミになってしまういらぬものでも、違う視点から考えたらいるものになるものなんて、この世にはまだ数えきれないほどあると思うので、これから先、今回の経験を生かしている見つけていけたらと思っています。



● 苔が主役の日本庭園

なぜ、苔を主体にして、日本庭園を制作したかというと、率直に言うと、私は苔が好きだからです。そして、苔の素晴らしさをもっと多くの人に知ってほしい。そう思ったからです。

なんか暗いイメージだとか、苔にするとかという言葉があったりして、苔に対してよいイメージはないのかもしれませんが、ゼニゴケなど単体で見れば苔が好きな私でも気持ちが悪く思ってしまう苔もありますが、それは少数派の苔であり、きれいでかわいい苔は日本そして世界中にたくさんあります。今回は、身近な場所、例えば道のアスファルトの脇に生えているスナゴケ、を使って、私はこの機会に庭園をデザインしました。スナゴケは、一般的に緑化に使われている苔です。



(左の写真：日本庭園の全体像、右の写真：苔主体)

上記の写真のようにどこを中心にみるかによって、ものの見方は大きく変わります。そして、何通りの見方があり、何通りも楽しみ方があります。このページを読んで、写真を見て少しでも日本庭園に興味があれば、ぜひ本物の庭園を老馬谷ガーデンに見に来ていただきたいです。写真と本物は違います。本物は写真と違い、稜線がより鮮明に、草木の色がより鮮やかに見えます。老馬谷(戸)ガーデンの中に小さな谷戸が実はあるので、谷戸はさあどこに・・・